

えんだより

令和6年度8月

みつづかこども園

夏ならではの生活体験を

友達との関わりが上手になり、周りのことに目を向けて生活できるようになってきました。友達にも声を掛け、一緒に行動することを楽しみながら、やりたいことを見つけ、いろいろな方法を考えていけるよう見守っていきたいと思います。

夏です。日頃は、忙しくて家族でゆったりすることが限られてしまいがちですが、夏休み、お盆の帰省など、ご家族で過ごすことの多いこの時期には、是非近隣の散策等を楽しんだり、おうちのお手伝いをしたりなど家族と過ごす「のんびりゆったり感」を楽しんでいただきたいものです。このふれあい・生活体験が子どもたちの新しいエネルギーとなり、普段の生活にも意欲が出たり、感性が磨かれたりします。

おぼんについて

お盆の正式名称である「盂蘭盆会（うらぼんえ）」は仏教の「盂蘭盆経（うらぼんきょう）」というお経に由来しているとされています。盂蘭盆経の「盂蘭盆（うらぼん）」は、サンスクリット語の「ウラバナ（逆さ吊り）」が起源。お釈迦様の弟子の一人、目連（もくれん）にまつわる言い伝えを表しています。

先祖のおかげで今の自分が生かされていることに感謝し、自らの生き方を見直すという意義ある行事です。お墓や仏壇に手をあわせることで、自分と故人・先祖とのつながりを感じることができます。故人や先祖に感謝を伝えるとともに、今の自分と向き合う機会にもなるお盆の風習は、生命の大切さを教えてくれる行事でもあります。これからも大切にしたいですね。

個別懇談にご協力ありがとうございました。いろいろなお話をお聞かせいただき、今後の保育の参考にさせていただきます。ご相談・ご意見がありましたらいつでもお声をお掛けください。

行事予定

1日(木)	交通安全指導
5日~17日	合同保育 (登園状況により)
13日~17日	希望保育
16日(金)	発育測定
20日(火)	保育料引落日
23日(金)	避難訓練

外出するときは…

- ☆炎天下では帽子と水分補給を忘れずに
- ☆子どもから目を離さない、一人にしない
- ☆遊んだ後は十分な休息を
- ☆計画には余裕をもって

お知らせ

- ・8/5~17の間は登園状況により合同保育となるため、日によっては教室が変わることがあります。変更になる場合はあらかじめお知らせします。分からない場合はお近くの保育教諭にお尋ねください。ご協力をお願いします。
- ・ひまわり組担当の加藤彩、ふじ・ばら組担当の甲斐麻由が退職しました。

親の同情を引こうとするとき

子どもは親に構ってもらいたくて同情を引こうとすることがあります。朝、登園際に「お腹が痛い」と言い出したら親は迷います。本当に痛いのか、家で寝かせておくべきか、医者に連れて行くべきか…もしかしたら、園に行きたくなくての嘘かも。それとも、親に甘えたいのか…。親はどれか一つ答えを出さなくてはなりません。そんな時、一番大切なことは親の同情を引けばわがままを通せるのだと思わせないようにしましょう。「園に行ったら、どうなっちゃうと思うの?」「家でどうしたいの?」「本当はどうだったら一番よかったの?」「どうすればそういう風にできると思う?」仮病の場合、こんな問い掛けに答えていくうちに、本当はどうしたいか自覚できるようになります。親も対話を通し子どもの状態をつかめます。もし親に構ってほしくての仮病なら、それまでの接し方を思い出してみてください。忙しくて余裕がなかったなら是非子どもとの時間を増やすよう心がけてみたいものです。

園長 小藪 達也